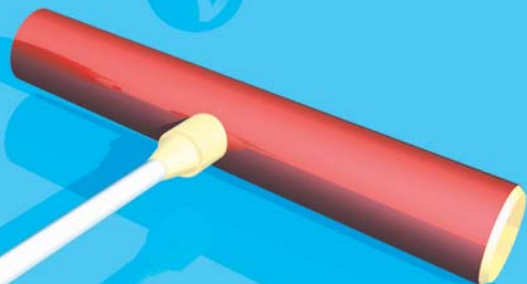




日本財団 助成事業
The Nippon Foundation

みんなで楽しく遊ぼうよ!!

ゲートボール 普及活動促進 Book



財団法人 日本ゲートボール連合
JAPAN GATEBALL UNION

はじめに

少子化が進む中、人と人との関わりや家族の余暇活動が重視されています。その中であって、老若男女が一緒になって楽しむ、地域住民との世代間交流にもなるゲートボールのイベントは、各地で成果を上げ、愛好者増加への兆しを見せています。

ゲートボールに対して求められるものは、「みんなで楽しく遊びたい」「コミュニケーションを大切にしたい」「生涯スポーツとして自分のペースで続けたい」「ゲーム戦略を楽しみたい」など、人それぞれの考え方があるものです。

ミドル世代への普及活動では、高齢者のスポーツというイメージを払拭するような「ゲーム性の楽しさ」「頭脳スポーツとしての奥の深さ」を、余暇を持った団塊の世代に体験してもらうことが重要です。

ジュニア世代への取り組みにおいては、市区町村団体の地域クラブごとに「親子ゲートボール教室」を開催して地域の親子にゲートボールを楽しんでもらい、ゲートボールが「ファミリースポーツ」として定着し、30代や40代の親の世代をも引き込むことを目指しましょう。

普及活動を成功に導くためには、指導者研修会等において情報交換を行い、指導者として常に学ぶことはもちろん必要ですが、実際に初心者の方々と接して生の声を聞き、多くのイベントを積み重ねていくことが、指導者にとって有益なノウハウとなって蓄積して行きます。

この「ゲートボール普及活動促進BOOK」では、市区町村団体の普及活動を担う地域指導者及び地域クラブの指導者が活用できるように、世代別指導の注意点やイベントを開催する際のポイントをわかりやすくまとめました。今後の普及活動に役立て、仲間と共に推進していただきたいと思います。

ゲートボール普及活動促進BOOK 目次

はじめに(目次)	01
ジュニア世代(6歳以上、18歳未満)への普及策	02
ミドル世代(18歳以上、65歳未満)への普及策	06
シニア世代(65歳以上)への普及策	10
「親子ゲートボール教室・大会」を開催しよう	14
「地域イベント」を開催しよう	18
指導者の心得	20

ジュニア世代(6歳以上、18歳未満)への普及策

- 「ファミリースポーツ」「コミュニケーションスポーツ」をアピール
- 市区町村団体では、地域クラブリーダーと連携して、学校内での普及を促進
- 地域クラブは、「親子ゲートボール教室」を開催し、世代間の交流を促進

ジュニア世代への普及ポイント

地域クラブが親子教室を積極的に開催

- 家族で楽しみ、世代間交流のできるゲートボールをアピールする。
- ジュニア世代への普及を図る。



市区町村行政・教育委員会と連携

- 家庭や学校にゲートボールを普及する。
- 子どもたちの成長に合わせてゲートボールを指導する。



都道府県高等学校体育連盟への加盟を目指す

- 高等学校に同好会・クラブを設置する。
- 若い競技者を育成する。
- 国民体育大会参加の基盤をつくる。

学校などに普及させる時のアピールポイント

年齢、性別に関わらず一緒に楽しめる

子どものコミュニケーション力と心が育つ

子どもだけでなく、地域の大人ともふれあえる

社会性が養える

身体への負担が適度で、知的能力を養える

発達途中の子どもたちに最適

チームプレイで、子ども同士や大人との関わり方の他に社会性が養える

学校や自治体などへの初回訪問のポイント

- ゲートボールを子どもたちに普及させるメリットを説明し、興味喚起を行う。

説明用「ゲートボール資料」を用意しよう!

行政をはじめ、学校やPTA、自治体などに訪問の約束が取れても、長時間説明することはできない可能性があります。

ゲートボールを子どもたちに普及させたい理由・競技の説明などの要点をまとめましょう。



資料例1 ナイスパル

- スポーツとしての盛り上がりを理解できる。
- 全国レベルで若い世代に愛好者がいることがわかる。

資料例2 PR記事

- アピールしたい記事をまとめておくとスムーズに説明できる。(ゲートボールの楽しさを伝えるなど)

資料例3 アルバムや映像

- 写真(アルバム)や映像(DVDなど)でゲートボールの良さを実感してもらう。

資料はポイントを押さえて用意しましょう

チェック!

まずは学校を知ろう!

学校訪問は長い目で見て、まずは地域の学校の様子を知ることから始めます。

学校で行われる地域とのふれあい行事、地区の子どもが集まる地域イベントなどが行われていたら、是非参加して、積極的に学校・子どもと関わしましょう。

たとえば…

- 運動会(子どもがいるクラブ員にお願いする)
- 犬の散歩(ワンワンパトロール)
- ゴミ拾い(地域の清掃ボランティア)



市区町村団体の役割のポイント

行政・学校・PTA・自治会
などへの働きかけ

- クラブリーダーと連携して各団体を訪問する。
- 学校内での普及を図る。
(資料を揃えてしっかり説明しましょう)



学校内での講習会・
教室の開催

- クラブリーダーと提携し、学校に指導者を派遣する。
- 子どもたちにゲートボールの楽しさを広める。



「親子ゲートボール教室」
の企画・開催

- クラブ・チーム単位で開催する。
- 市区町村団体の事業として開催する。
- ファミリー(家族)大会を開催する。

●ジュニア専門指導者を配置し、指導計画を立案しよう!

熱しやすく冷めやすい子どもに教える時は、ミドルやシニアへの指導より、一歩踏込んだ工夫が必要です。

集中力を考慮する

一度に説明する時間は15分程度にする。

上達方法を考慮する

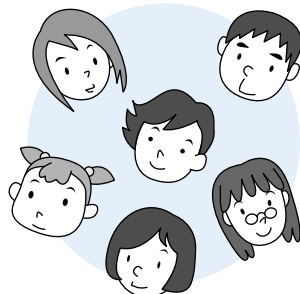
競争心をくすぐる内容にする。

チェック!

「ジュニア」は「小さなミドル」

ほめて伸びる子、叱咤激励してやる気が出る子、
ちょっとでも嫌だと感じたらもう来ない子…今の
子どもたちは大人顔負けに多様化しています。
自分の子どもや孫と一緒に遊んで楽しむ気持ちで、
取り組みましょう。

「指導」より「楽しませる」気持ち大切です。



地域クラブの役割のポイント

自治体と連携して
親子会員を勧誘

- 行政の生涯学習スポーツ課や地域振興課と連携して親子会員を勧誘する。
- 自治体に協力を仰ぎ、公共施設などに「親子ゲートボール教室」のチラシ配付やポスターの掲示を行う。

+

親子教室を開催し
ゲートボールを広める

- 親子教室でゲートボールに興味を持たせる。
- 学校内での講習会や次の教室開催を図る。

+

交流試合などを企画し
各種競技会に参加

- クラブ間の交流試合などの企画や各種競技会に参加する。
- ジュニアの競技力向上を促進させる。

- 3世代・4世代のゲートボール競技会を通して世代間の交流を図る。
- 地域社会に貢献し、クラブの存在意義を高めることや地域住民の理解を促進する。

チェック!

「楽しく遊ぶ」ことから始めよう!

初めてゲートボールに触れる子どもたちには、「ゲートボールの技を習得しよう」「大会で優勝しよう」と意気込んで参加している子の他にも不安を感じている子も多くいます。正式なルールを守らせることにこだわり、注意ばかりしていたら「ゲートボールってつまらない」と思われてしまいます。まずは、楽しい・面白いと思ってもらうために、スティックを握り、ボールを打ってゲートをくぐらすことから始めましょう。ルールについて教えることは後からでも大丈夫です。



子どもが楽しめる、興味が持てることを第一に考えましょう。

ミドル世代(18歳以上、65歳未満)への普及策

- ミドル専門指導者を育成し、競技会を整備
- 市区町村団体で、「ミドル部会」を設置
- 活動時間が限られるミドルに配慮して、スケジュールを調整

ミドル世代への普及ポイント

土曜・日曜などの休日、
夜間を利用しよう

- ミドルが参加しやすい休日や夜間を利用した講習会や教室、競技会を実施する。



少人数(2人・3人)で
チームを編成しよう

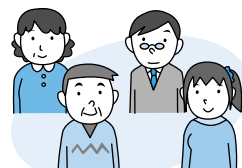
- リレーションを活用して、地域のミドル会員が隣近所の仲間を誘って、チーム数を増やす。



気軽に交流できる
活動の場を作ろう

- 地域でゲームを楽しむ競技環境を整備する。
- ミドルリーグなどを設ける。

- 加盟団体の普及部門に「ミドル部会」を設置する。
- ミドル世代の意見や要望を取り入れ、反映する。



幅広い世代がミドルの面白さ

チェック!

リレーション・2&3の競技を利用しよう!

ミドル世代は、参加できる時間帯やニーズが多様なため、少人数でも競技可能なリレーションダブルス(2対2)やリレーショントリプルス(3対3)を取り入れながら普及しましょう。

少人数でも競技が成立し、試合運びもスピーディーになります。



市区町村団体の役割のポイント

「ミドル部会」による
新規ミドル会員の勧誘

- ミドル部会を設置し、会員勧誘を行う。
- 友人・知人を誘う口コミを行う。



実際に体験させ、スポーツ
としての魅力を強調

- 初心者用のミドル教室を開催する。
- ゲーム性の面白さ、知的スポーツ性を広める。



ミドル専門指導者を設け
初心者の指導計画を立案

- 地域クラブに指導者を派遣するなどの支援を行う。

ミドル会員の意見を集約するためにはアンケートが有効です。
以下の項目を挙げて調査し、普及策を検討しましょう。

- ゲートボールを始めたきっかけは何ですか？
- ゲートボールの好きなところは、どんなところですか？
- 新たな仲間を誘うために、どんな工夫をしていますか？
- 夫婦や親子など、家族みんなで楽しむための工夫は何ですか？
- 時間や活動場所への意見や要望はありますか？ など



ミドル専門指導者育成のポイント

ミドル専門指導者の
育成とクラブへの派遣

- クラブリーダーと連携してミドル指導者の研修会などを行う。
- クラブに指導者を派遣して初心者の指導・競技指導などを行う。



ミドル会員・クラブ同士の
情報交換を行う

- 使用するコートの確認や対戦するチームの紹介を行う。
- チーム内の連絡体制を整備する。
- 他クラブとの交流をもつ。



ミドルの競技力向上を
促す交流試合などを企画

- クラブ同士のつながりを深める。
- 指導者間の交流を図る。

ミドルリーグの運営ポイント

運営母体は
市区町村団体

- ミドルリーグは、「ミドル部会」が主管する。
- ミドルチームの年間登録料で運営する。



リーグの開催要項・年間の
競技計画を策定

- 年間を通じた交流試合を企画する。
- 着実に試合を実施することが、競技の普及につながる。



リーグは2人制・3人制
(リレーション)の競技とする

- 年間の競技成績で順位を決定する。

ミドルリーグに参加するチームが少ない場合は、シニアからの参加者も受け入れる

チームの育成ポイント

クラブ全体の
練習計画を調整

- 活動時間が異なるクラブ員のために、練習やゲームの時間を確保する。



クラブ員それぞれの
熟練度に合わせた指導

- 初心者には基本技術を指導する。
- 中級者はリレーションを通してチーム技術を指導する。
- 上級者は実戦で個々の技術力やチーム戦略を向上させる。



練習・交流試合の企画と
各種競技会への参加

- 一つでも多くの試合経験を積むことが大切。
- 更なる上級クラスを目指す。

チェック!

「教える先生」から「支える仲間」へ

これからの指導者は、「教える先生」から「支える仲間」として、参加者と学びあい、会員同士の温かな人間関係を構築して行くことが必要です。

例えば、一つの技術を教える時に指導者が見事な実演をして「このようにやってみて」と言うよりも、わざと失敗して「なぜ失敗したのか?」と原因を解説したほうが親近感がわき、支え合う仲間としての距離がぐっと近付きます。

ミドル会員勧誘のポイント

自治会・商工会(商店会)・
企業などに呼び掛ける

- 初心者講習会を開催して普及活動を行う。
- 口コミやチラシで勧誘を行う。
(企業などにチラシを置いてもらう)



初心者講習会を
定期的で開催

- 時間の調整がつかない人のために、定期的
に開催する。



地域住民と交流し、
親しくなってから勧誘

- 知らない人から勧誘されるよりも、友人・知人
となってからのお願いの方が有効です。

● 勧誘の際の注意点

ミドル世代は、社会環境やライフスタイルが違う人たちの
集まりです。

早急に会員を増やそうとせず、楽しさをアピールしながら
じっくりと、着実に勧誘を行きましょう。



勧誘の際に注意したいポイント

「なぜやらないのか?」と
しつこく問いつめない

- 一度断った人に何度も勧誘すると、態度を硬
化させる場合があるので注意する。



すぐに会員登録しない
からと焦らない

- 焦らず気長に待つことも大切です。



相手の性別・年代で
勧誘役を変える

- 若い女性への勧誘は女性が行う。
- 相手の負担とならないよう考慮する。

シニア世代(65歳以上)への普及策

- 「地域クラブ」「全世代型ゲートボールクラブ」を育成
- 市区町村団体は、クラブリーダーを育成し、地域クラブの活動を支援
- 地域クラブは、複数チームを編成するとともに、シニアの勧誘を促進

シニア世代への普及ポイント

「全世代型ゲートボールクラブ」を育成しよう

- 小・中学校の単位で地域クラブを組織化する。
- 地域の「全世代型ゲートボールクラブ」を育成する。

+

地域住民対象の講習会・競技会を企画しよう

- 地域住民が参加しやすい講習会、競技会を企画する。
- ポスター・チラシなどを利用した告知、口コミなどを活用する。

+

幅広いニーズに応えられる競技環境の整備

- 少人数・短時間でも楽しめるバリエーションゲームを積極的に採用する。
- 会員の幅広いニーズに応えられる競技環境を整備する。

全世代型ゲートボールクラブを育成しよう!

全世代型ゲートボールクラブとは?

- ジュニア・ミドル・シニアの各世代のチームが存在するクラブのこと。
- 日常の練習やゲームはクラブ内でチームを編成して活動し、対外競技会へはクラブのメンバーから選抜して参加します。

全世代型ゲートボールクラブの組織化

- 地域クラブがジュニア・ミドルをクラブに参加させることで、全世代型クラブになるよう努めます。
- 組織化した後は日常の競技活動や各種普及活動の母体として活動しましょう。

市区町村団体の役割のポイント

専門指導者の配置と育成 研修会の開催

- 地域指導者育成のための年間計画を作成する。
- 地域クラブを運営する指導者(クラブリーダー)や専門指導者の研修会を実施する。



競技会・交流試合の開催 と初心者講習会の支援

- クラブ間の交流の場を作る。
- 地域クラブの協力を得て初心者講習会などの企画も行う。



審判員の養成と 講習会の実施

- クラブ単位または複数のクラブと連携する。
- 受験準備のための講習会、審判更新講習会・指定講習会などを実施する。

クラブリーダーを育成し、組織化する

市区町村団体はクラブリーダーの研修会を通して、情報を共有化し、リーダーの資質の向上に励み、地域クラブの活性化を図ります。

地域クラブ運営について指導を行う

- 地域クラブは、クラブ員から年間行事計画に応じた会費を徴集して運営します。
- 地域クラブは、クラブ総会で、事業計画・予算案を審議し、事業報告・決算報告の承認を受けます。

地域の複数チームをクラブへ移行させる

人数が少ないなどの理由で活動ができなくなったチームを集めて、一つのクラブに移行させ、活動を再開させます。

「ゲートボール祭り」を開催する

ゲートボール教室・大会に、地域住民に喜んでもらえるようなイベントをプラスして「ゲートボール祭り」として開催し、相乗効果を図ります。

 詳細はP18へ

地域クラブ・チームの育成ポイント

目的・競技レベルに応じて
練習計画を策定

- 個人のレベルに合わせて練習内容を決める。
- シニアは特に運動量に配慮する。



練習試合や他クラブとの
交流試合を企画

- チームの競技力向上を図るために、クラブ内で練習試合を行う。
- 市区町村のクラブとの交流試合を企画する。
(競技レベルに応じた対戦を基本にする)



競技会参加時は
選抜チームを編成

- 競技会の開催趣旨・目的に応じて、選抜チームを編成する。
- クラブ全員が何らかの競技会に参加できるように配慮する。

上記をふまえて、年間計画を立てましょう

●相手の探究心を引き出そう!

ゆっくり、焦らずに遊びからスタートさせ「探究心を引き出す」ことは、どの世代でも効果的な方法です。

教える相手の年齢を問わず、初心者にもルールや技術を体得させる際の近道であり、長続きさせるための秘訣です。

あら、そうっ?



ん？

チェック!

地域クラブ員同士で交流しよう!

クラブ員で旅行に行ったり、忘年会、お茶会、新年会、カラオケ大会を催すなど、ゲートボール以外のレクリエーションの場を作ることで、地域クラブ員の親ぶくを更に深めることができます。

親睦を深めてチームの
結束を強めましょう



初心者への指導と指導者の配置

無理なく技術を習得
できる指導計画を策定

- 初心者専門指導者が一定期間(3~6ヶ月)、ゲートボールに必要な技術を楽しみながら習得できる指導計画にする。



競技力向上に応じて
練習メニューを工夫

- 指導者は、初心者の競技力向上に応じて練習メニューを工夫する。
- 初心者の興味を持続させる方法をとる。(上達が早い人は次のステップに進ませるなど)



初心者への指導は
専門指導者だけで

- 最初は専門指導者だけで初心者を教える。(初心者がなれてきたら周りの人も協力し、親ぼくを深める)

初心者が戸惑わないように配慮しましょう

地域クラブ員を勧誘しよう

初心者教室を開催して
地域住民と交流

- 定期的に初心者教室などを開催し、地域住民が参入しやすい開放的なクラブにする。



クラブ員募集期間を設け
積極的に勧誘する

- 定期的に「クラブ員募集期間」を設ける。
- 口コミやポスターの掲示、チラシの配付を行う。
- シニアに対しての勧誘を積極的に行う。



「ゲートボール祭り」の
開催

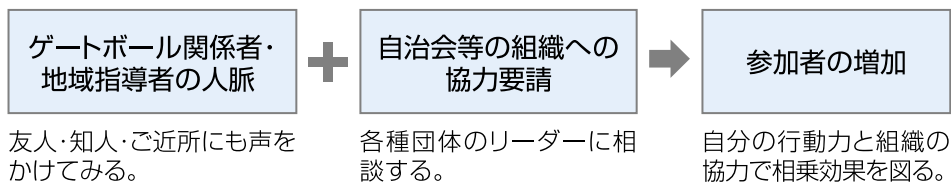
- 地域住民が気軽に参加でき、誰でも楽しめる内容にする。

ゲートボール+地域住民が楽しめるイベントを組み合わせましょう

「親子ゲートボール教室・大会」を開催しよう

ゲートボールは、子どもの情操教育をしながら親子の絆を深められる“ファミリー&コミュニケーション・スポーツ”です。ゲートボールの面白さを広め、若い世代の愛好者を増やすために、「親子ゲートボール教室・大会」を開催しましょう。

より多くの参加者を集めるために



スタッフ同士連携して自らも積極的に参加者集めに努めましょう

●一人だけで決めずに相談しましょう!

イベントの開催準備は、一人では気づかないことや見落としがある場合も考慮して、スタッフ同士意見を出し合って進めましょう。また、会場のトイレの場所や避難経路、当日のスケジュールは、スタッフ全員が頭に入れておくと当日スムーズに対応できます。



チェック!

開催時期に気をつけましょう!

夏休みなどは参加者を集めやすい時期だと思われるがちですが、実際は子どもも親も行事が多く、参加したくても参加できなかったという例もあります。事前に他の組織や地域イベントのスケジュール、参加者のニーズなどを調査するなどして、開催日を調整する必要があります。



“ファミリー&コミュニケーション・スポーツ”としてのメリット

親子が対等なプレーヤーとして、同じルール・同じ道具・同じコートで楽しめる

親子のふれあいだけでなく、地域住民同士の交流を促進できる

身体への負担が适度

知的能力を養うことができる

発達途中の子どもたちに最適

チームプレイで、親子の絆・家族の連帯感が深まる

学校・地域団体のメリット

子どもの安全・居場所づくりの一助となる

年代を超えたコミュニケーションが生まれる

地域と学校の繋がりや交流の手段として役立つ

子どもたちの社会性が養え、地域の活性化に繋がる

●^{アルファ}プラスαで参加者アップ!

他のイベントと共同開催

他のイベントとの共同開催は相乗効果で参加者アップが期待できます。

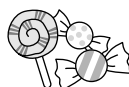
- 地域のイベント
- 子ども会の行事
- 他団体のイベントなど



和太鼓演奏会

「オマケ」も重要

ちょっとしたオマケが子どもを「参加してみよう」という気にさせます。



おやつあり



参加記念品



ランチタイム



参加証や終了証

魅力的なポスター・チラシに

イラストを入れたり、文字や色を工夫し目立たせましょう。

「準備不要」や「参加無料」などの参加しやすくなる情報は大きめに掲載します。



「親子ゲートボール教室・大会」開催に向けて

各自治体や学校関係者の理解と協力が得られたら、具体的な内容を詰めていきます。しっかりと確認を取り、開催当日に備えましょう。

イベント告知のポイント

●以下の項目は忘れずに記載しましょう。

- 開催日
- 開催時間
- 開催場所
- 参加対象者
- 連絡先
- 雨天時の対応など

開催曜日 前期希望と後期希望の2班編成とする

前期 平成15年9月6日(土) 10月18日(土) 11月15日(土) の3日間

後期 平成15年12月6日(土) 12月14日(日) 平成16年1月17日(土) の3日間

講習時間 午前10時から12時まで

参加料 無料

開催場所 「すぱーく上峰」(佐賀県三笠市上峰町大字坊所)

参加人数 1教室の参加者数は「親・子ども共に各20名ずつ」とし定員にて締切。(親子でなくても大人・子どもであれば可)

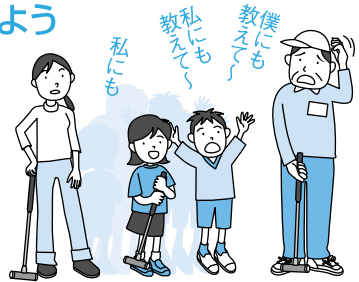
参加期間 前期及び後期希望共、8月23日(木)より9月1日(月)までの期間とする。

その他 前期・後期の各教室に於て3日間の首飾者には修了証と記念品を贈る。



●参加者数に応じた指導員を配置しよう

たくさんの参加者が集まった方がイベントは盛り上がりませんが、参加者数に見合った会場・企画・指導員を準備することが重要です。当日、参加者一人ひとりへのケアが十分にできるようにしましょう。



チェック!

「すぱーく」を利用すると便利!

全国各地103ヶ所にある多目的屋内ゲートボール場「すぱーく」など、屋内施設を活用しましょう。運動場や広場では、天候で参加人数が左右されますが、屋内なので雨天時も開催可能で、トイレや休憩場所の確保の心配もありません。



イベントに求められるポイント

楽しさ

「面白い」「充実している」と思える、活気ある雰囲気を作る

- 指導するだけでなく、参加者とコミュニケーションをとることが大切。
- 子ども・大人を問わずに声をかける。

優しさ

相手の気持ちを考えた懐の深い指導者

- 相手が初心者であることを十分に考慮する。
- 励ましたり、アドバイスしたり、思いやりを持って接する。

手際よさ

イベントの段取りのうまさ
と、切り替えの早さ

- テキパキと進行できるように指導者同士連携する。
- 集中力は大人でも15分位が限界と言われています。



参加者は、楽しい一日を期待しています
指導に力が入り過ぎないようにしましょう



● ちょっとの工夫で、次回参加につなげよう!

参加費を集める場合はお釣を用意しよう

当日の内容によっては参加費を集める場合もあるでしょう。見落としがちですが、その場合、お釣となる小銭を多めに用意しておきましょう。細かい気配りが次回イベントの参加へと繋がります。



目標は徐々に高く!

参加者に、やる気やチャレンジ精神を持たせて、イベントを盛り上げるには、小さなステップを積み重ねて行くように目標を設定すると効果的です。いきなり大きな目標をたてずに、「真剣にやれば何とかできそうだ」というレベルの目標を設定することで、成功した時の充実感を参加者に与えましょう。

目標や実績は数字にして記録に残そう

目標を数字で示し、成績も目に見えるようにすることで、もっと上達したい、次回も参加しようと思わせませす。用紙やカードを作成して記録に残せば更に効果的です。



10球のうち、何球第1ゲートを通すことができるかな?

「地域イベント」を開催しよう

ゲートボールを介して、世代を超えて地域住民がともに楽しめる「地域イベント」を開催しましょう。ゲートボールを普及させるだけでなく、地域社会にコミュニケーションの場を設けることができます。

ゲートボール以外のイベント内容例

伝統芸能

祭などで行われる機会のある和太鼓や吟剣詩舞は、実演を見るのも、体験教室に参加するのも楽しめます。



問い合わせ先

伝統芸能保存会、子ども会や趣味サークル など

スポーツレクリエーション

フライングディスクやダブルダッチなど、ゲーム感覚で誰でも気軽に参加できます。

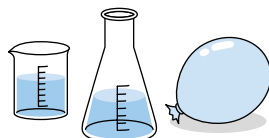


問い合わせ先

コミュニティスポーツ教室、自治体の体育協会 など

科学実験教室

テレビなどの影響もあり、科学体験教室が各地で人気です。



問い合わせ先

自治体の科学館、学校・学生ボランティア など

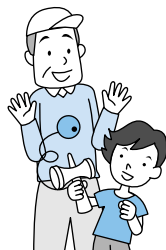
●参加者を集める際の留意点

地域・他団体に協力してもらったとしても、主催はあくまでもゲートボール側です。単独で行うゲートボール教室よりも会場やスタッフの規模が大きくなるので、関係者の口コミだけでは参加者集めにも限りが出てきてしまいます。ポスターやチラシなどはしっかり制作し、イベント告知に力を入れましょう。

チェック!

シニアにおまかせ! 「昔遊び」のススメ

「昔遊び」とは、けん玉・あやとり・竹とんぼ…シニア世代が子どもの頃に親しんでいた、昔から伝わる遊びのことを言います。現代の子どもたちには新しく、ミドル世代の大人たちには懐かしく感じられ人気があるだけでなく、身近な材料を使っておもちゃを手作りすることから「知育」の宝庫として見直されています。



「IGS検定」の普及と活用

平成20年度からゲートボール技能認定制度がスタート

「IGS検定」は、受検者の1級～3級までの技能を認定する

検定の共通課題で初心者から上級者までの競技力向上を図る

初心者から上級者までの競技力向上を図るための基本的な競技技術を設定している。

「IGS検定」のメリット

初心者の練習パターンを多く採用。普段の練習で技能のレベルアップが可能。

打撃・スパーク打撃、ボールのコントロールの技能の自己評価を判定できる。

チームの作戦力を高めるための基本練習として最適である。

初心者がゲートボールの「楽しさ」「奥の深さ」を体験するためには、ゲーム(試合)に参加して、チームで行う戦略や作戦を体験することです。

初心者が基本技術をマスターするためにはある一定の練習期間が必要です。「IGS検定」課題を普段の練習に活かして、チームの一員としてゲームに参加しましょう。

チェック!

いろいろな大会を企画しよう

「地域イベント」では、地域の行政、自治会、商工会などの関連団体の協力を得て、初心者や地域住民と楽しめる大会を企画しましょう。

企画例

- ・チャリティー大会
- ・リレーション親善大会
- ・クラブ交流大会
- ・夫婦大会
- ・400歳大会
- ・障害者との交流大会
- ・〇〇町商店会交流大会
- ・〇〇祭り協賛大会
- ・〇〇温泉交流大会

●イベント開催の注意点

事故 開催中の事故の連絡は正確に早く関係者に伝わるよう、お互いに気をつけておきましょう。

急病人 ケガのときは、すぐに救急隊を呼びましょう。自分たちでの判断は危険です。

保険 イベントを開催する場合は、必ず傷害保険等に加入しましょう。

天候 当日の天気は来場者の数に大きく影響します。雨天の場合の対応も考えておきましょう。

指導者の心得

「指導者同士で情報を共有化し、組織化すること」、「研修会や講習会に積極的に参加し、日々指導力向上に努めること」は、普及活動促進のために必要です。加えて、クラブ員やイベント参加者と接する際に留意すべきポイントがあります。

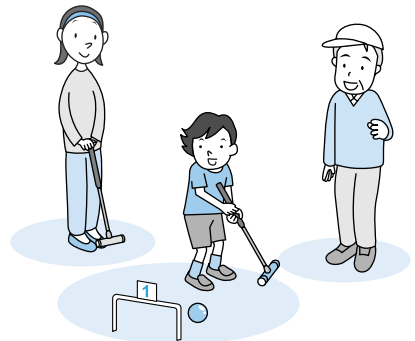
指導者は「PATROL (パトロール)」しよう!

よりよい指導者となるために心がけることの頭文字をとって「PATROL」が提案されています。

P rocess	プロセス	「結果ではなく経過を重視しよう」
A cknowledgment	アックノレッジメント	「相手の言動を承認しよう」
T ogether	トゥギャザー	「一緒に楽しみ、考えよう」
R espect	リスペクト	「相手を尊敬・尊重しよう」
O bservation	オブザベーション	「相手をよく観察しよう」
L istening	リスニング	「相手の話をよく聞こう」

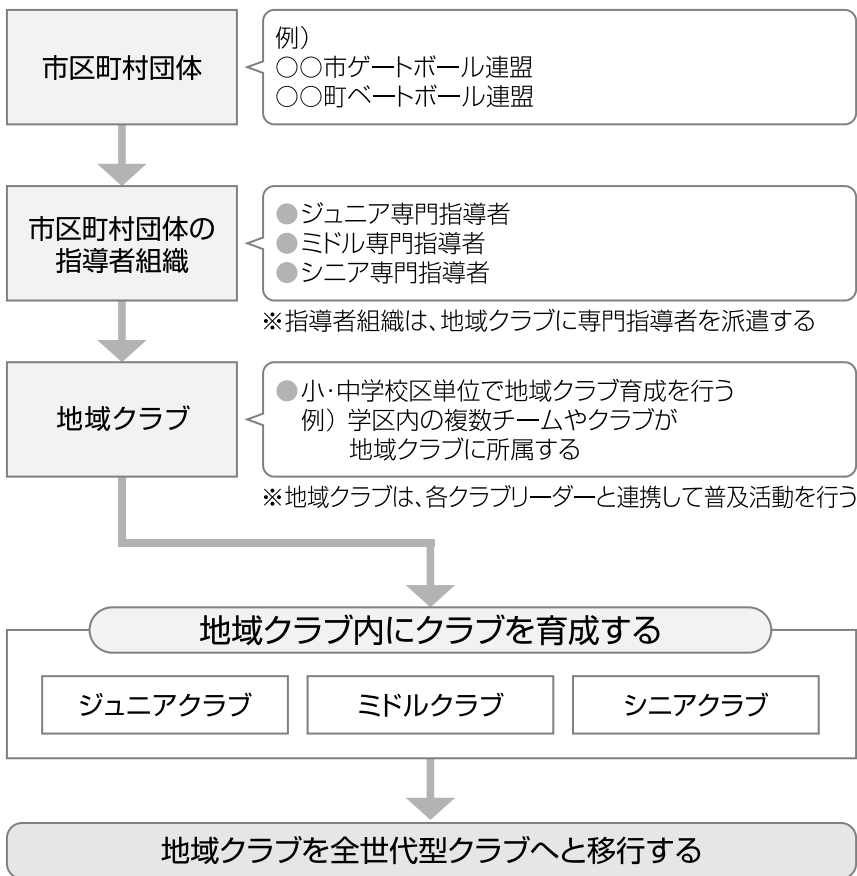
こんなことにも注意しましょう。

- 誰にでも公平に接して、ひいきをしない。
- 男女の差別をしない。
- 感情的に怒鳴ったり、大声を出さない。
- 明朗で親しみやすい話し方をする。
- 清潔感のある服装をする。
- 相手の身体に触れて指導を行う場合は必ず声をかけて了承をとる。



※ 財団法人日本体育協会「21世紀のスポーツ指導者」参照

普及指導体制の組織のあり方



みんなで楽しく遊ぼうよ!!

ゲートボール
普及活動促進 **Book**

発行日 平成22年3月1日

発行者 財団法人日本ゲートボール連合

発行所 財団法人日本ゲートボール連合

〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-15-16海洋船舶ビル

TEL 03(3580)9397

<http://www.gateball.or.jp/>



財団
法人 日本ゲートボール連合
JAPAN GATEBALL UNION

日本ゲートボール連合

検索

この冊子は、日本財団の助成を受けて制作しています